

東海における MSM に対する検査提供と介入の効果評価

研究分担者：金子典代（名古屋市立大学 大学院看護学研究科 教授）

研究協力者：石田敏彦、藤浦裕二、藤井良樹（ANGEL LIFE NAGOYA）

研究要旨

新規に HIV 検査と梅毒検査が提供可能なクリニックを岐阜県に開拓し、協力を得た。利用者は初年度 31 名（平均 15.5 名）、2 年度目 57 名（平均 19 名）、最終年度 43 名（平均 10.8 名）であった。その結果、HIV 陽性件数は初年度が 1 件、2 年度目が 2 件、最終年度が 3 件（総計で 6 件、2.1%~11.1%）、梅毒の陽性件数は初年度が 9 件、2 年度目が 12 件、最終年度が 11 件（総計で 32 件、18.8%~33.3%、いずれも既往歴も含む）であった。

ゆうそう検査では、初年度に 79 キット、2 年度目に 75 キット、最終年度に 132 キットの配布ができ、総計で 286 キット配布した。その結果、HIV 陽性件数は初年度が 0 件、2 年度目が 0 件、最終年度が 0 件（総計で 2 件、0.0%）、梅毒の陽性件数は初年度が 7 件、2 年度目が 7 件、最終年度が 18 件（総計で 32 件、15.3%、いずれも既往歴も含む）であった。検体を郵送した人のうち、93.0%~96.7%は結果画面にログインし、自身の結果を確認していたと考えられる。重複感染でわかった人はいなかった。

保健所の検査機会が少なくなっているばかりでなく、CBO が検査機会を創出し、検査行動を促進する取り組みは今後も重要である。東海地域では一貫して行政と HIV、梅毒検査を民間医療で提供する取り組みを協働で実施した。より民間医療機関で提供する検査が定着、継続可能なものとなるよう行政とも連携して進めていくことが望まれる。

ゆうそう検査では WEB 配布と対面配布の両方を実施し、WEB 配布の方が東海地域のみの利用者ではなかったが、初受検の割合も高く、コミュニティセンターの認知も低いことから、リーチしにくい層に届いていた可能性が示唆された。

A.研究目的と背景

先行研究から、HIV 検査の選択肢を増やすことは、検査行動の促進につながるということがいわれている。保健所の HIV 検査は非常に重要であるが、地方都市や平日に保健所に来所できないクライアントには時間の都合や距離の遠さから不便さも伴う。また令

和 2 年 2 月からの新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、保健所での検査提供は 7 割以上減少となっている。この減少を埋めるためにも新たな検査機会での補完が急務となった。

そこで、東海地域では大阪や中四国で成功を収めてきた民間医療機関を活用した

HIV と梅毒の検査提供（通称クリニック検査）をモデルとし展開することとした。

また自己採血により検体を送付しスクリーニング検査を受けるゆうそう検査もコミュニティセンターでの対面配布、WEB 配布を実施した。MSM が利用しやすい HIV・梅毒の検査の選択肢を増やし、期間集中で配布を実施し、検査普及における有効性の評価を行った。

B.研究方法

1) クリニック検査

大阪や中四国で成功を収めてきたクリニック検査の先行事例を解析し、その方法を参考に実施した。東海地域の中でも、面積が広く、検査アクセスに課題がある岐阜県において民間医療機関を開拓、協力を依頼し、新たな検査プログラムを実施した。また名古屋市内の利便性の高い場所に開所している民間医療機関にも協力を依頼し、実施した。3 年間で岐阜県内において新たにクリニックを 1 件開拓し、総計 4 機関で検査を提供した。

医療機関への協力依頼、Twitter 等 SNS での告知、出会い系アプリや SNS アプリを使った広報は ANGEL LIFE NAGOYA が担当した。受検者には検査提供医療機関で自記式アンケートも実施し、協力を要請した。

また岐阜県と協働で新たに岐阜県内の医療機関での臨時 HIV と梅毒検査提供機会の設定についても検査広報に協力した。

2) ゆうそう検査

東海地域在住の MSM や名古屋市の MSM 向け商業地域(コミュニティセンター rise の所在地) にアクセスできる MSM を

対象に、ポスターやコミュニティペーパーなど紙媒体による広報展開も実施した。対面配布を実施した。コミュニティセンターと商業施設(ハッテン場)にて配布会を実施した。

本研究計画はいずれも名古屋市立大学看護学部倫理審査委員会により実施の承認を得た。

C.研究結果

1) クリニック検査

これまでの東海地域で実施してきた各種の調査データを用い、啓発戦略を策定した。東海地域では、2003 年より名古屋医療センター、ANGEL LIFE NAGOYA、行政(名古屋市) が連携し大規模検査会を実施している。その際にも検査を知るきっかけは SNS、口コミ、出会い系アプリでの広告が最も多いことに鑑み、本プログラムでも MSM 向けの出会い系アプリ広告を活用した。

新型コロナウイルス感染症の再拡大が起き、緊急事態宣言が出されていたため、紙資材を用いたゲイバー等への情報アウトリーチは十分に展開できなかった。

令和 2 年度は 2 クリニックで総計 31 名の利用があり、過去に HIV 検査の経験がないものも 19.4%いた。HIV の陽性件数は 1 件であった。梅毒は既往歴と新規感染合わせて 9 名の陽性が見られた。

令和 3 年度は、新たに三河地域においても新規のクリニックを開拓し協力を得たて、3 クリニックで総計 57 名の利用があった。2 期にわけて実施し、HIV の陽性件数は 2 件であった。梅毒は既往歴と新規感染合わせて 12 名の陽性が見られた。

最終年度は 4 クリニックで岐阜市内のク

リニックは 6 名の利用者、名古屋市のクリニックは 30 名、豊橋市内のクリニックは 7 名の利用があった。HIV の陽性件数は 3 件であった。梅毒は既往歴と新規感染合わせて 11 名の陽性が見られた。

とうかいクリニック検査 実施結果

2020年度	
2021/1/12 -2/26	受検者31名 (HIV陽性1名、梅毒陽性9名)
2021年度	
第1期 2021/8/1 -9/30	受検者48名 (HIV陽性1名、梅毒陽性9名)
第2期 2022/1/31 -2/26	受検者9名 (HIV陽性1名、梅毒陽性3名)
2022年度	
2022/6/1 -7/30	受検者43名 (HIV陽性3名、梅毒陽性11名)

3年間の合計 受検者131名 (HIV陽性率4.6%、梅毒感染率24.4%)

2) ゆうそう検査

令和 2 年度は、総計 79 キットを配布した。コミュニティセンターrise での対面配布が 64 件、WEB での配布が 15 件であった。アンケートに回答したものは 71 名であった。実際に検体を検査会社に郵送したものは 60 名であった。96.7%が結果サイトにログインしていた。

HIV 陽性件数は 0 件、梅毒の陽性件数は 7 件（既往歴も含む）であった。検体を郵送した 71 名のうち、49 名（81.7%）はアンケート結果との連結に同意していた。アンケートに回答し、かつ検体郵送した者 49 名の属性については、35 歳未満が 55.1%を占めた。愛知県の居住者が 89.8%であった。生涯初の検査経験割合は 16.3%であった。過去 1 年の検査経験がなかった人は全体のうち 71.4%であった。MSM 対象の予防啓発やコミュニティセンターのことをあまり知らなかった人は 30.6%を占めた。

令和 3 年度は、総計 75 キットを配布した。コミュニティセンターrise での対面配

布が 15 件、WEB での配布が 60 件であった。アンケートに回答したものは 75 名であった。実際に検体を郵送会社に郵送したものは 57 名であった。HIV 陽性件数は 0 件、梅毒の陽性件数は 7 件（既感染も含む）であった。郵送検査利用者の属性については、対面配布かつ ID 連結の同意を得た 14 名においては、30 歳未満が 14.3%を占めた。東海地域の居住者が 100.0%であった。生涯初の検査経験割合は 7.1%であった。過去 1 年の検査経験がなかったものは全体のうち 21.4%であった。MSM 対象の予防啓発やコミュニティセンターのことをあまり知らなかった人は 35.7%を占めた。WEB 配布かつ ID 連結の同意を得た 31 名においては、30 歳未満が 25.8%を占めた。東海地域の居住者が 58.1%であった。生涯初の検査経験割合は 35.5%であった。過去 1 年の検査経験がなかったものは全体のうち 80.6%であった。MSM 対象の予防啓発やコミュニティセンターのことをあまり知らなかった人は 51.7%を占めた。

最終年度は、総計 132 キットを配布した。コミュニティセンターrise やゲイ向け商業施設に出向いての対面配布が 40 件、WEB での配布が 92 件であった。アンケートに回答したものは 120 名であった。実際に検体を郵送会社に郵送したものは 101 名であった。HIV 陽性件数は 0 件、梅毒の陽性件数は 18 件（既感染も含む）であった。

郵送検査利用者の属性については、対面配布かつ ID 連結の同意を得た 22 名においては、東海地域の居住者が 100.0%、生涯初の検査経験割合は 4.5%であった。過去 1 年の検査経験がなかったものは全体のうち 59.1%であった。MSM 対象の予防啓発やコ

コミュニティセンターのことをあまり知らなかった人は 22.7%を占めた。

また WEB 配布かつ ID 連結の同意を得た 38 名においては、東海地域の居住者が 60.5%、生涯初の検査経験割合は 31.6%であった。過去 1 年の検査経験がなかったものは全体のうち 71.1%であった。MSM 対象の予防啓発やコミュニティセンターのことをあまり知らなかった人は 60.5%を占めた。

D.考察

愛知県と名古屋医療センターが行っている無料 HIV・性感染症検査会にコロナ禍以前の過去 5 年は毎年 600~700 名の MSM が受検していた。クリニック検査やゆうそう検査いずれも、資材は作成したが配布直前から緊急事態宣言や新型コロナウイルスの感染拡大に伴う自粛や時間短縮の影響で、主要なゲイバーがほとんど営業しないこととなり、紙媒体配布の効果は薄くなった。

東海地域では新たにクリニック検査を 3 年間試行した。最終的に MSM や HIV に理解のある医療機関を、名古屋で 1 機関、三河地域で 1 機関、と岐阜市内で 1 機関、岐阜県内の 1 クリニックの協力を得た。今後も協働関係を継続していくことが重要であると考え。より民間医療機関で提供する検査が定着、継続可能なものとなるよう行政とも連携して進めていくことが望まれる。

またゆうそう検査キットの配布を継続していくなかで、受検意識が高い層は東海地域クリニック検査を利用していることもあり、アウトリーチの範囲を広げていく必要がある。

他研究班による検査提供や、本研究班の

クリニック検査の時期とかぶったなかで検査機会の促進に取り組んでいることから、他の検査提供機会と時期を調整しつつ、必要な層に訴求していくことが求められる。

E.結論

新規に HIV 検査と梅毒検査が提供可能なクリニックを岐阜県に開拓し、協力を得た。利用者は初年度 31 名 (平均 15.5 名)、2 年度目 57 名 (平均 19 名)、最終年度 43 名 (平均 10.8 名) であった。その結果、HIV 陽性件数は初年度が 1 件、2 年度目が 2 件、最終年度が 3 件 (総計で 6 件、2.1%~11.1%)、梅毒の陽性件数は初年度が 9 件、2 年度目が 12 件、最終年度が 11 件 (総計で 32 件、18.8%~33.3%、いずれも既往歴も含む) であった。

ゆうそう検査では、初年度に 79 キット、2 年度目に 75 キット、最終年度に 132 キットの配布ができ、総計で 286 キット配布した。その結果、HIV 陽性件数は初年度が 0 件、2 年度目が 0 件、最終年度が 0 件 (総計で 2 件、0.0%)、梅毒の陽性件数は初年度が 7 件、2 年度目が 7 件、最終年度が 18 件 (総計で 32 件、15.3%、いずれも既往歴も含む) であった。検体を郵送した人のうち、93.0%~96.7%は結果画面にログインし、自身の結果を確認していたと考えられる。重複感染でわかった人はいなかった。

保健所の検査機会が少なくなっているばかりでなく、CBO が検査機会を創出し、検査行動を促進する取り組みは今後も重要である。東海地域では一貫して行政と HIV、梅毒検査を民間医療で提供する取り組みを協働で実施した。より民間医療機関で提供する検査が定着、継続可能なものとなるよ

う行政とも連携して進めていくことが望まれる。

ゆうそう検査では WEB 配布と対面配布の両方を実施し、WEB 配布の方が東海地域のみの利用者ではなかったが、初受検の割合も高く、コミュニティセンターの認知も低いことから、リーチしにくい層に届いていた可能性が示唆された。

F.研究発表

1.論文発表

- 1) Noriyo Kaneko, Satoshi Shiono, Adam O. Hill, Takayuki Homma, Kohta Iwahashi, Masao Tateyama, Seiichi Ichikawa: Correlates of lifetime and past one-year HIV-testing experience among men who have sex with men in Japan, *AIDS Care*, 2020.DOI: 10.1080/09540121.2020.1837339
- 2) 金子典代, 塩野徳史: コミュニティセンターに来場するゲイ・バイセクシュアル男性の HIV・エイズの最新情報の認知度と HIV 検査経験, コンドーム使用との関連. *日本エイズ学会誌*, 23(2), 2021.
- 3) 宮田りりい, 塩野徳史, 金子典代: MSM (Men who have sex with men) に割り当てられるトランスジェンダーを対象とする HIV/AIDS 予防啓発に向けた一考察-ハッテン場利用経験のある女装者 2 名の事例から. *日本エイズ学会誌*, 23(1), 18-25, 2021.
- 4) 金子典代, 塩野徳史: MSM を対象にした当事者主体の HIV 検査の取り組みと意義. *日本エイズ学会誌*, 22(3), 136-146, 2020.

- 5) 今橋真弓, 金子典代, 高橋良介, 石田敏彦, 横幕能行: 名古屋市無料匿名性感染症検査会受検者における性感染症既往認識と検査結果. *日本感染症学会誌*, 31(1), 2020. doi:10.24775/jjsti.S-2019-0003.

2.学会発表 (国外)

- 1) Anand Tarandeep, Nitpolprasert Chattiya, Shirasaka Takuma, Iwatani Yasumasa, Yokomaku Yoshiyuki, Imahashi Mayumi, Kaneko Noriyo, Iwahashi Kota, Ikushima Yuzuru, Aoki Rieko, Ishida Toshihiko, Shiono Satoshi, Yamaguchi Masazumi, Takemura Keizo, Iwamoto Aikichi: HIV Prevention among MSM in JAPAN: Current Opinions on Achieving the First 90 among Japanese MSM. *The International Congress on Drug Therapy in HIV Infection (HIV Glasgow 2020)*, Glasgow, 2020.
- 2) Benjamin R. Bavinton, Adam Hill, Natalie Amos, Sin How Lim, Thomas Guadamuz, Noriyo Kaneko, Martin Holt, Adam Bourne: Low PrEP uptake among gay, bisexual, and other men who have sex with men in five Asian countries: Results of the Asia Pacific MSM Internet Survey. *The 11th IAS - the International AIDS Society - Conference on HIV Science*, Virtual, 2021.
- 3) Adam O Hill, Benjamin R Bavinton, Noriyo Kaneko, Lise Lafferty, Anthony Lyons, Stuart Gilmour, Jennifer Power,

Gregory Armstrong: Associations between social capital and HIV risk-taking behaviours among men who have sex with men in Japan. 2021 Joint Australasian Sexual Health and HIV&AIDS Conferences, Virtual, 2021.

3.学会発表 (国内)

- 1) 金子典代:U=Uをめぐる陽性者と HIV 予防対策と医療者のあり方について. 日本エイズ学会シンポジウム, 第34回日本エイズ学会学術集会・総会, WEB 開催, 2020
- 2) 林田庸総、柏木恵莉、土屋亮人、高野操、青木孝弘、瀧永博之、菊池嘉、岩橋恒太、金子典代:乾燥ろ紙血による HIV Ag/Ab 郵送検査の検査ラボでの結果についての検討. 第34回日本エイズ学会学術集会・総会, WEB 開催, 2020
- 3) 荒木順、金子典代、木南拓也、柴田恵、岩橋恒太、藤原孝大、鈴木敦大、小山輝道、高久道子、高久陽介、市川誠一、張由紀夫、生島嗣:ゲイバー等との連携による「LivingTogether のど自慢」の実践とその効果について. 第34回日本エイズ学会学術集会・総会, WEB 開催, 2020
- 4) 井上洋士、後藤大輔、船石翔馬、高橋良介、塩野徳史、金子典代:成人前期(20歳代)MSMでの性行動と HIV・性感染症認識に関する面接調査研究. 第34回日本エイズ学会学術集会・総会, WEB 開催, 2020
- 5) 高橋良介、末盛慶、金子典代、石田敏彦:NLGR+への参加状況と HIV 抗体検査受検経験の関連性. 第34回日本エ

イズ学会学術集会・総会, WEB 開催, 2020

- 6) 金子典代:日本の MSM における HIV 検査の促進、阻害要因に基づく検査拡大戦略. 第1回 Fast-Track Cities Workshop Japan, Tokyo, 2021
- 7) 金子典代:MSM を対象とした HIV 検査促進プログラムの変遷と HIV 検査機会拡大にむけた新たな試み. 日本エイズ学会シンポジウム, 第35回日本エイズ学会学術集会・総会, 東京, 2021
- 8) Michiko Takaku, Myagmardorj Dorjgotov, Erdenetuya Gombo, Nyampurev Galsanjamts, Noriyo Kaneko, Seiichi Ichikawa: Studies on mitigating stigma and developing an awareness program targeting a population at risk for HIV infection in Mongolia. 第35回日本エイズ学会学術集会・総会, 東京, 2021
- 9) 浅沼智也、金子典代、荒木順、生島嗣、塩野徳史、砂川秀樹、宮田りりい、今村顕史:トランスジェンダーとセクシュアルヘルス. GID 学会第23回研究大会・総会, WEB 開催, 2022
- 10) 金子典代、浅沼智也、荒木順、生島嗣、塩野徳史、砂川秀樹、宮田りりい、今村顕史:性別違和・トランスジェンダー当事者における性産業従事経験、性行動、性感染症の罹患、検査の実態. 第36回日本エイズ学会学術集会・総会, 浜松, 2022

G.知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む)

- 1.特許取得 なし

2.実用新案登録 なし

3.その他 なし

表 1 郵送検査利用者の概要（令和 2 年度 -令和 4 年度）

	年度	R2	R3	R4	
	地域	愛知	愛知	愛知	
	CBO	ANGEL LIFE NAGOYA	ANGEL LIFE NAGOYA	ANGEL LIFE NAGOYA	計
	コミュニティセンター	rise	rise	rise	
a 配布数		79	75	132	286
対面配布数			15	40	
WEB配布数			60	92	
b 受検者アンケート回答者数		71	90	120	281
c 利用者数；郵送検査会社での受付数		60	57	101	218
対面配布数(c対面/a対面)		()	()	26 (65.0%)	
WEB配布数(cWEB/aWEB)		()	()	75 (81.5%)	
利用率計；配布数に占める利用者数(c/a)		75.9%	76.0%	76.5%	76.2%
d 結果確認者数；結果画面のログイン記録（割合 d/c）		58 (96.7%)	53 (93.0%)	96 (95.0%)	207 (95.0%)
抗体検査結果					*重複感染 (0名)
<input type="checkbox"/> HIV感染症					
e 判定不能者数（割合 e/c）		0 (0.0%)	1 (1.8%)	1 (1.0%)	2 (0.9%)
f 陽性数（割合 f/c）		0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
推定 新規陽性者数（新規陽性率）*		0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	0.0 (0.0%)	
<input type="checkbox"/> 梅毒					
g 判定不能者数（割合 g/c）		1 (1.7%)	2 (3.5%)	6 (5.9%)	9 (4.1%)
h 陽性数（割合 h/c）		7 (11.9%)	7 (12.7%)	18 (18.9%)	32 (15.3%)
推定 新規陽性者数（新規陽性率）*		2.5 (4.2%)	1.2 (2.2%)	8.5 (8.9%)	
i 追跡可能者数；無料ID使用者数（割合 i/c）		49 (81.7%)	45 (78.9%)	60 (59.4%)	154 (70.6%)
j 事後アンケート回答者数（割合 j/c）		()	45 (78.9%)	74 (73.3%)	
k 追跡可能な事後アンケート回答者数（割合 k/c）		()	38 (66.7%)	46 (45.5%)	

* 新規陽性者の推定は、j)追跡可能者実数における既往を除く陽性率をもとに新規陽性率を算出し、（利用者数-判定不能者数）に乗じて求めた。

** すべての集計より再受検の重複は除いた。*** 空欄は研究デザインの都合上データはない。